

2023年03月28日
株式会社三菱UFJ銀行

SBSホールディングス株式会社で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 はんざわ じゅんいち 半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、SBSホールディングス株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」によるシンジケーション方式での実行可能期間付タームローンの契約を締結いたしました。SBSホールディングス株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行とMURCが共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨をJCRより確認しております。

【本契約の概要】

契約締結日	2023年3月28日
アレンジャー	三菱UFJ銀行
コ・アレンジャー	三井住友銀行
エージェント	三菱UFJ銀行
組成金額	180億円
資金使途	事業資金

《本件の概要》

SBSホールディングス株式会社は、サステナビリティ経営の推進にあたり、「SBSグループサステナビリティ方針」を定め、企業活動を通じて環境・社会・経済課題の解決に取り組み、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を企図しています。

また、「安全」「環境」「人財」の3分野における重要課題（マテリアリティ）を特定しており、指標（KPI）設定の上で、「SBS グループサステナビリティ推進委員会」のもとで取り組みを進められています。中期経営計画の重点施策の1つである「サステナビリティ経営基盤の強化」にも、マテリアリティに対する取り組みが盛り込まれております。

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持および、ネガティブ・インパクトを緩和・管理するため、SBS ホールディングス株式会社による今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI等）については以下の通りです。

内容	目標とモニタリング項目（KPI等）
(1) 積極的な設備投資による物流施設の開発拡大	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBS グループ全体として、物流DXの活用によって効率化施策が実施された大規模倉庫の増床（LT・IT設備を導入した物流施設のうち、3PL事業に用いられる設備の比率が9割以上である物流施設を対象） <ul style="list-style-type: none"> └ 2023年：愛知県 物流センター一宮（17,400坪） └ 2024年：千葉県 野田瀬戸A棟（50,800坪） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流DXの活用によって効率化施策が実施された大規模倉庫の床面積（LT・IT設備を導入した物流施設のうち、3PL事業に用いられる設備の比率が9割以上である物流施設を対象）
(2) 女性活躍推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBS グループ全体として、管理職全体の中での女性管理職比率 <ul style="list-style-type: none"> └ 6.0%（2023年） └ 7.0%（2024年） └ 8.0%（2025年） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性管理職比率
(3) 従業員のワークライフバランスの向上	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBS グループ全体として、 <ul style="list-style-type: none"> └ 男性育児休暇取得率：前年度比増加 └ 年次有給休暇取得率：前年度比増加 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性育児休暇取得率 ・年次有給休暇取得率
(4) 貨物運送時の交通事故抑制	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBS グループ全体として、車両1台当たりの事故率削減 <ul style="list-style-type: none"> └ 0.80%（2023年） └ 0.65%（2024年） └ 0.50%（2025年） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両1台当たりの事故率

<p>(5) 事業活動に伴う CO2 排出量の削減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SBS グループ全体として、車両燃費 前年比 1%以上の改善 ・ SBS グループ全体として、売上高当たりの CO2 排出量 前年比 3%以上の削減 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車両燃費改善率 ・ 売上高当たりの CO2 排出量
<p>(6) 事業活動に伴う NOx、PM 排出量の削減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SBS グループ全体として、排ガス含有の NOx、PM 値 前年比 1%以上の削減 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排ガス含有の NOx、PM 値
<p>(7) 事業活動に伴う 資源 (水) の消費 量低減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SBS グループ全体として、従業員 1 人当たりの水使用量 前年比 1%以上改善 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員 1 人当たりの水使用量

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目 (KPI 等) の状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義 (パーパス) と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上